

横室古墳公園(陣馬・庄司原古墳群)(前橋市)

正面の上が横室古墳公園

[video](#)



説明板が立っている



6世紀後半～7世紀後半築造の両袖型横穴式石室をもつ円墳群で、この公園に上庄司原1号墳と移築された2及び4号墳が所在する

陣場・庄司原古墳群

陣場・庄司原古墳群は富士見村大字横室字陣場・上庄司原・下庄司原地区にあり法華沢川右岸の台地上に位置していました。この地区一帯は富士見村でも有数の遺跡包蔵地で、平成元年度県営ほ場整備事業富士見地区に伴って発掘調査が行われました。(陣場・庄司原遺跡群)

古墳公園が作られた上庄司原1号古墳周辺も縄文時代前期と平安時代の集落跡で、遺跡名を上庄司原東遺跡と言います。

発掘調査を行った古墳は7基で、墳丘の形状はすべて円墳です。墳丘の規模は直径20m前後が5基、10m前後が2基です。ほとんどの古墳の墳丘の周りには葺石が積まれ、その外側に周堀が掘られていました。石室の前には墓前祭を行ったと思われる、前庭という施設が設けられているものも多かったです。

石室はすべて両袖型横穴式石室ですが、石室の構築方法や石材の加工方法・材質などには様々なものがあります。多くは赤城山の山石(輝石安山岩)をほとんど加工せずに積み上げただけの、自然石乱石積石室ですが、入口などの一部に切り石を用いているものもあります。さらに、榛名山二ツ岳から噴出された(6世紀)転石(角閃石安山岩)を用いた削り石積石室や截石切組積石室もあり、この古墳群の中で古墳時代後期から終末期の石室の変遷がたどれる貴重な古墳群です。

遺物はほとんど古墳から盗掘されていましたが、武器類(大刀・小刀・鉄鏃)、馬具、飾類(耳環・ガラス小玉・帯金具)、土器類(須恵器の埴・高杯・平瓶・甕、土師器の高杯・坏)などが出土しています。

古墳群の作られた時期は6世紀後半から7世紀後半にかけての間と思われます。

横室古墳公園は現地保存した上庄司原1号古墳のまわりに上庄司原2号古墳と上庄司原4号古墳の石室を移築し、あわせて保存整備を行ったものです。



古墳位置図



横室古墳公園

公園内の上庄司原1・2・4号墳と2・4号墳跡地及び3号墳と下庄司原1号墳の辺りを見てみよう！



左手の道路を登って行くと、公園の入口があった/前方に墳丘が見える



これが上庄司原1号墳/周囲に周堀が巡っている/西側から見たところ

[video](#)



右手(南側)に回ると横穴式石室が開口しており、説明板が立っている



かみ しょう じ はら

上庄司原1号古墳

上司原1号古墳は、陣場・庄司原古墳群の中で最も残存状況のよかった古墳であり、現在地にそのまま保存し、墳丘の復元などの若干の整備を行ったものです。

古墳は、法華沢川に望む台地の崖端に築かれた、径約14m（テラス上の基壇を含めると約24m）の円墳で、その周辺には一部を除いて周堀が巡っています。墳丘の周囲には葺石が積まれています。

石室は、赤城山の山石（輝石安山岩）を用いた自然石乱石積みの両袖型横穴式石室で、旧地表面を掘り込んで作られています。石室の前面には、墓道状の前庭が設けられており、

墓前祭が行われたと思われます。

玄室の中からは耳環や大刀、鉄鏃、馬具等が出土し、人骨、歯も残っていました。（複数の遺体が埋葬されていたと思われます。）前庭とその周辺からは、須恵器の甕、甕、土師器の坏等が出土しています。

整備は、後世の耕作などによって崩されていた墳丘に若干の盛り土を行い、盗掘などによって抜き取られていた玄室と羨道部の天井石を補っただけで、他の部分はほとんど調査したときのままです。なお、周堀の部分には砂利を敷いて範囲を示しています。

横室古墳公園





赤城山の山石(輝石安山岩)を用いた自然石乱石積みの両袖型横穴式石室



東側から見たところ

 [video](#)



北側から見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ/周堀の感じが見て取れる



同じく、右手を見たところ



それでは墳丘に登ってみよう！

 video



さて、こちらが石室を移築保存した上庄司原2号墳(右手)と4号墳(左手の覆屋が架かっているもの)/説明板が立っている



上庄司原4号古墳

ここから約400m南西にあった古墳の石室を移築し、若干の石材等を補って復元整備を行ったものです。

墳丘の形状は円墳で直径約16m、北側から西側にかけて周堀が巡っていました。

石室は上庄司原2号古墳と同じ榛名山給源の角閃石安山岩を用いたもので、形状は他の古墳と同様に両袖型横穴式石室ですが、石材の加工方法・石室の構築方法は、截石切組積という当時の最高技術を用いて作られた石室です。

石室には加工を行うときや、石室を構築するときの目安とした「朱線」が残っているものがあります。また、石材の中には内面に「水磨き」を施しているものもあり、これらの石材を「間知積み」しています。

石材の内面形状は基本的に方形ですが、意識的に凹凸の部分を作って石材を組ませています。

石室はすでに盗掘されていましたが、鉄製の鞘金具と銅製の帯金具（巡方・丸柄）が出土しました。このうち、銅製の帯金具は截石切組積石室としては群馬県内で初めて出土したものです。

截石切組積石室の古墳はこれまでわずかに約30基が知られているに過ぎませんが、上庄司原4号古墳の石室は、前橋市の宝塔山古墳や吉岡町にある南下A・E号古墳の石室などとともにその中でももっとも秀麗な部類に属しています。

上庄司原2号古墳

上庄司原1号古墳の西側に隣接していた古墳の石室を移築して調査時点の出土状態に復元したものです。

墳丘の形状は円墳で、直径約20m、南側の一部分を除いて周堀が巡っていました。

石室は、榛名山二ツ岳噴出（6世紀）の角閃石安山岩の転石を用いた削り石積み両袖型横穴式石室です。玄室は間仕切りによって奥室と前室に区切られ、奥室の床面のほうが一段高く造作されていました。

石室は構築後間もなく左壁から崩壊したと思われる、遺物がほとんど盗掘されずに残っていました。

遺物は、奥室から直刀・小刀が、前室から須恵器の子持ち腿・平瓶・長頸瓶・高坏・土師器の高坏・ガラス小玉・耳環・馬具（轡・鉸具）・鉄鏃が出土しました。また、羨道部から土師器の小型甕、石室の前から須恵器の甕が出土しています。

須恵器の子持ち腿は、東日本では出土例が数少なく、大変珍しく貴重な遺物です。また、中小の古墳では、遺物が盗掘されずに残っていることも少ないため、埋葬当時の副葬品の内容がわかる貴重な古墳です。

こちらが上庄司原4号墳/榛名山給源の角閃石安山岩を用いた両袖型横穴式石室

[video](#)



羨道入口



玄室



玄室入口



玄室から羨道方向を見たところ

 [video](#)



「截石切組積み」という当時の最高技術を用いて造られている/凹凸の部分を造って組み合わせている

[video](#)



こちらは上庄司原2号墳/羨道から玄室方向を見たところ

 [video](#)



奥壁/榛名山ニツ岳噴出(6世紀)の角閃石安山岩の転石を用いた削り石積み両袖型横穴式石室

[video](#)



振り返って、羨道方向を見たところ



玄室から羨道方向を見たところ/玄室は間仕切りによって前室と奥室に区切られていて、奥室の床面のほうが一段高く造られていたらしい



さて、上記の移築保存された上庄司原2・4号墳の跡地及び上庄司原3号墳、下庄司原1号墳の辺りを探訪してみよう！



この辺りが上庄司原2号墳の跡地



前方の建物の部分が上庄司原4号墳の跡地



正面前方が上庄司原3号墳があった辺りと思われる



道路の前方右側が下庄司原1号墳があった辺りと思われる



